

日出学園の教育目標や園児・児童・生徒たちの学園での様子を発信する年3回発行の情報紙です。



# 学園通信日出

学園通信「日出」Vol.42 2024年2月1日発行  
<http://www.hinode.ed.jp/>  
 発行：学校法人日出学園  
 〒272-0824 千葉県市川市菅野3-23-1  
 TEL 047-323-3000  
 FAX 047-324-0921



2024.2  
Vol.42



## 特集 幼稚園・小学校 連携による 就学準備保育

### 日出学園 卒業生からのメッセージ

勉強したこと、体験したことは必ず役に立つ時が来ます



GMO NIKKO株式会社  
 マーケティングソリューション本部 兼  
 社長室 TRUE AI X所属  
**花岡 陸**  
 Hanaoka Riku

GMO NIKKO 株式会社の花岡陸と申します。現在は営業として案件のディレクションに取り組みつつ、ChatGPTを含むAI開発にも携わっています。そんな僕ですが、日出学園在籍時の成績はお世辞にも良いと言えるものではありませんでした。当時の僕は「嫌いな勉強をやって将来何になるの？」と常に思っていました。しかし、ある日僕は些細なことをきっかけに勉強を頑張るようになりました。乃木坂46にハマったのです。乃木坂の方たちとお知り合いになるには、エリートになる必要があると考え、勉強に打ち込むようになりました（今考えても単純すぎる動機ですが、笑）。きっかけはともあれ、大学に合格し希望の企業に就職することができました。日出学園は穏やかな校風ですが、今思えばそ

れが適していたと思います。当時のやる気のない僕に対しても頭ごなしに叱責することはなく、しっかりと見守って下さいました。これがもし厳しい校風であれば心が折れてしまい、些細なきっかけも掴めなかったと思います。園児・児童・生徒の皆さんに2点伝えたいことがあります。1点目は「勉強を頑張るきっかけは何だったか」ということです。進路選択などで頭を悩ませることもあるかと思いますが、僕のような理由でやる気が出るならそれが良いと思います。お金持ちになりたいとか、周りの人から褒められたいとか何でも良いのです。まずは一歩目を踏み出し、日出学園の先生方に背中をそっと押ししてもらってください。自分の本質的に求めていることに対して勉強はどう結びつくのか考

えるのも良いかもしれませんが。日出学園にはSTEAM教育という、考える力を養ってくれる素晴らしい教育があるので。2点目は「学んだことは役に立つ時が来る」ということです。僕は受験で数学を使ったのですが、数学的な思考力は今の会社においても評価される要素になりました。その甲斐あってAI開発にも抜擢され、今はその業務も楽しく行うことができています。勉強したこと・体験したことはいつか必ず役に立つ時が来ます。数年しかない学生生活ですから、全力で楽しんでください！  
 2018年日出学園卒業。中学・高校6年間日出学園に在籍。駒澤大学経営学部進学後、インターネット広告代理店GMO NIKKO株式会社に入社。営業として案件のディレクションを務める傍ら、社内のAI開発チームも兼務。現在入社2年目。

### 巻頭言

日出学園幼稚園と小学校の連携による就学準備保育の取り組み



日出学園小学校 教頭 兼 幼稚園長補佐  
**藤原 佐具子**

日出学園幼稚園の保育は、幼稚園から高等学校までの一貫した教育理念のもと、人間形成の出発点として、生きる力と自ら行動する力を育むことを目的としています。年少・年中児は自由保育を行い、園児の自由な発想力や自主性を伸ばすことに重きを置いています。年長児は「日出学園幼小連携カリキュラム」を通し、小学校教育で力を発揮できる子どもを育てたいと考え、自由保育を基本としながらも設定保育を意図的、部分的に導入し、一斉指導や集団での活動への抵抗がないように試みています。幼稚園と小学校のギャップを減らすことは、いわゆる「小1プロブレム」を回避する目的もあります。また、実際に日出学園小学校の教室で、音楽、図工、理科、情報などの教科を小学生と同じように学習する「わくドキ授業」を実

施し、さまざまな学年の小学生と交流を重ね、年長児が小学生の姿を見てモデルとして学ぶことから、小学校へのスムーズな移行も目指しています。2022年、「小1プロブレム」を解消するため、文部科学省が推進する「幼保小の架け橋プログラム」が制定されました。生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期、義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と呼ぶことにし、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿として、10項目を挙げています。本学園では、2014年に「幼小連携カリキュラム」が策定され、幼少期に身につけなければならない基礎・基本を確認し、幼稚園教育の充実を図ってまいりました。基本的な生活習慣の確立や聞く力、ひらがな・数の理解、英語へ

の関心など7項目に渡ります。具体的にはワークを用いた学習や、時間に合わせて行動するなど、常に改善を重ねて今日に至ります。前述の「わくドキ授業」は、今年度、1学期・2学期に4教科1コマずつ試みました。園児たちは45分授業にしっかり取り組み、終了時に園児からは「もっとやりた〜い」と声が上がっていました。また、今年度より、年長に小学校1年生から音楽で学習する鍵盤ハーモニカを導入し、小学校音楽科教諭がカリキュラムに関わり、打ち合わせを繰り返して実施しています。保護者の方に手を引かれて通園していた風景は、一人で、あるいはお友達と通学する風景に変わります。ご家庭と連携を取りながら、スムーズに小学校生活がスタートできるよう、準備してまいります。

幼稚園  
・  
小学校教諭  
座談会

# 幼稚園・小学校連携による 就学準備保育



「小1プロブレム(問題)」という言葉があります。園児たちが小学校に入学した時、学校生活に馴染めず、静かに授業を受けることができない、皆と同じような集団行動をとることができないといったような状態を指します。文部科学省もこの小1プロブレムへの対策として、5歳児(年長時)から小学1年生までの期間を「架け橋期」と位置付け、幼稚園や保育園、そして小学校が連携してスムーズに小学校生活を送ることのできるカリキュラム作成を、2022年から本格的に取り組み始めています。日出学園幼稚園と日出学園小学校の間では、2014年に独自の「幼小連携カリキュラム」を策定し、「自信を持って小学校に進めるようにする」ということを目標に、保育が進められています。本特集では、日出学園幼稚園と日出学園小学校が連携して行っている「就学準備保育」の具体的な取り組みを、幼稚園保育長と年長担任教諭、小学校教頭と1年生担任教諭がご紹介します。

## 「幼小連携カリキュラム」とは

—現在、幼稚園で行われている就学準備のための保育活動の基本的な骨組みである、「幼小連携カリキュラム」について、その策定から今日までの経緯を教えてください。

**藤原教頭**▶2014年に策定された日出学園の「幼小連携カリキュラム」は、幼稚園児が小学校に入ってスムーズに学校生活が送れるようにと、当時の幼稚園園長や小学校校長・教頭、それに副園長によって委員会が構成され、基本方針が検討されました。現在、文部科学省が推し進めている「幼保小の架け橋プログラム」の先取りみたいな形ですね。

その後、2016年、2017年と具体的なカリキュラムが作成され、幼稚園の保育活動に組み込まれていくようになりました。

## —そのカリキュラムの具体的な内容は？

**藤原教頭**▶小学校は時間割がありますから、幼稚園でも毎日の保育を一定の時間割で進めるということ。また、小学校は45分授業なので、それに向かうだけの集中力・持続力を養うため、幼稚園では一定時間皆で学習する「ワークタイム」を設けました。また、小学校では先生の話聞くことがとても大事になります。聞く力をつけるための絵本の読み聞かせや、静かに本を読むことも習慣化しました。

そして、幼児期から英語への関心を持たせようと、「英語あそび」の時間を設けました。重視したことは「記憶に残る英語」で、英語で歌を歌ったりゲームをして、楽しみながら英語に親しんでもらおうというものです。



**北澤先生**▶小学校で勉強するには、何よりも聞く力がいちばん必要です。言語についての理解がまったくできないと、先生が話していることが、理解できないということになります。幼稚園ではこの聞く力を養うことについては相当一生懸命やっていたと思っています。

また、ワークタイムでは数を数える勉強をしているようです。小学1年では10までの計算を習いますが、他園からいらっしゃる児童は10まで数えられるところ、日出学園幼稚園では50まで数えられたり、鉛筆の持ち方もきちんと正しく持って書けたり、指導が行き届いていると感じます。

## 就学前の園児に望む生活習慣

**中村先生**▶小学校の入学前の説明会では、生活面で「こうあってほしい」という、5つのことについて保護者の方にお話しています。

1つ目は早寝早起きの習慣を身につけること。2つ目は自分の身の回りのことは自分でできるよ

うになること。3つ目は、相手の目を見て返事や挨拶がきちんとできること。4つ目は、思ったことを友だちや担任の先生にきちんと話ができること、伝えられるということ。5つ目は昼食時間内にお弁当を食べられるようにするということ。

そうしたことを入学前をお願いしていることもあって、入学して来る児童はおおむねきちんとできているように思います。



**石橋先生**▶幼稚園では、年少・年中・年長の段階でこの子はここが頑張れるから、おうちでもやってみてくださいというお話は常にしています。特に年長になると、次の段階に小学校があるので、前の日の支度は自分でできるようにしてくださいと保護者会でお願いしたり、個別面談時にお話したりしています。

**中山先生**▶11月に行った年長クラスの個人面談では、やはり保護者の方々の関心事は小学校に入ってからのことでした。勉強についていけるようにと、ご家庭で学習ドリルなどをやっているようです。それ自体悪いことではないのですが、それ以上に、北澤先生や中村先生がおっしゃったようなことを、まずきちんとできるようにしましょうとお話しています。普段の幼稚園での生活でも、中村先生がおっしゃったような5つのことを意識して指導しています。

## 集団行動が取れる園児・児童への指導

—「小1プロブレム」として取り沙汰されている、集団行動ができないという問題ですが、幼稚園でも小学校でも、教室を移動する時は、皆整然と列を乱すことなく移動できていますね。

**北澤先生**▶例えば、小学校の入学式や卒業式は、全校児童が出席しますが、予行練習はほんのわずかな時間だけで、本番では1年生から6年生まで、私語もなく静かに式が執り行われます。そうした行動は、入学した時からの積み重ねの賜物だと思います。



**中村先生**▶小学校では月曜日の朝、隔週で音楽朝礼と体操朝礼が行われますが、その時も全校児童が静かに行動できます。それは校内だけではなく、社会科見学に行った時でも、列を乱したりせず静かに行動できています。そうした集団での行動

は、日出の児童にとっては当たり前のことで、決して苦痛なことではなく、児童たちは楽しそうに社会科見学ができていますね。

**中山先生**▶幼稚園では年長になると、皆と一緒に行動するという身についてきますが、年少や年中の頃はそれがまだ思うようにできず、「こうしなさい」だけの注意ではうまく動きません。

相手の気持ちになって考えること、自分が今こうしなければいけないんだという経験を積み重ねることで集団行動ができるようになります。そうした気づきとなるような経験を、日々の保育の中では大事にしたいと思っています。

## 園児が小学校に親しむ「わくドキ授業」

—日出学園の「幼小連携プログラム」のなかで、同じ学園内に幼稚園と小学校があることのメリットを生かした「わくドキ授業」は、就学準備としてはかなり有効な機会ですね。

**藤原教頭**▶年長クラスを対象にした「わくドキ授業」は昨年度までは年4回だったものを、今年からは1学期・2学期合わせて8回まで増やしました。小学校に進学して、45分授業に慣れてもらい、小学校をもっと知ってもらいたいということで拡大したものです。

幼稚園では園児たちが集中できるのは10分程度ということで、「10分ワーク」を基本にしていたのですが、45分の「わくドキ授業」でも園児たちは集中して授業を受けています。これが小学校に入学しても、そのまま移行できるというと思います。

**中山先生**▶小学生と同じ45分間の授業でも、園児たちは無理なく楽しく授業に参加できているので、小学校の先生方の授業の準備や組み立て方はすごいなあと感じます。園児たちは1学期に受けた授業の先生の名前を覚えていて、2学期の2回目に教室へ入った時、「〇〇先生」と呼ぶなど、小学校で勉強することを本当に楽しみにしています。今年からは保護者の方々にも「わくドキ授業」の授業参観をしていただいています。参観を見て安心しました」と話していらっしゃいました。



**藤原教頭**▶授業を受けた園児たちからは、「帰りがたくな〜い」という声が上がっていましたね。園児たちが小学校に進学した時に、知っている先生がいるというのは、それだけで壁がなくなり、勇気づけられると思います。

## 幼稚園に定着した「英語あそび」

—もうひとつ、日出学園の「幼小連携プログラム」で特筆すべきなのは「英語あそび」だと思います。これは、2015年にこのカリキュラムが始まった時から組み込まれたものですね。

**藤原教頭**▶カリキュラムがスタートした当時の「英語あそび」は、年長クラスのみを対象に、小学校のネイティブ教員による週1回・10分程度だったものが、今日までいろいろと改善を重ね、年長クラスは1回30分から40分に拡大、さらには年少・年中クラスにも「英語あそび」を導入しています。

また、1週間に1回、朝からずっとネイティブ教員が幼稚園にいて、英語を使って園児たちと自然な形でコミュニケーションをとる環境を作り、英語により親しめるような機会を設けています。

**中山先生**▶ネイティブの先生は「This is a pen.」というような覚えさせる英語ではなく、楽しく英語に触れる時間にしてくださっていて、11月に行われた保育参観で発表した英語劇も、園児たちは楽しそうに演じていました。

**石橋先生**▶今年度から毎週火曜日の午前中は、小学校のアリソン先生が幼稚園に留まり、登園時から園児たちを玄関で迎えて、「Good morning, how are you?」などと園児と挨拶して、園児たちからは「I'm fine.」などと返事が返ってきています。

たまたまアリソン先生がお休みだった火曜日に、私が年少園児を玄関で迎えた時に、園児から「Hello!って言って」と言われて、園児たちにとって火曜日は英語の日というのが浸透しているんだなあと感じました。



—2015年度に「幼小連携カリキュラム」がスタートして、今年度で9年が経とうとしています。その間にも常にカリキュラムのブラッシュアップがされてきたわけですね。

**藤原教頭**▶昨年度より、「幼小連携プログラム委員会」を立ち上げて、小学校の多くの教員や幼稚園の教員をメンバーに、幼小連携カリキュラムの改善に取り組んでいます。

それが「わくドキ授業」の拡大やネイティブ教員の配置、鍵盤ハーモニカの導入や、課外活動での水泳導入という形になって現れてきています。また、ワークタイムの内容も順次確認しております。

**石橋先生**▶幼稚園と小学校との連携プログラムに加え、園児が自信を持って小学校に進めるように、1日1日の生活を大事にしながら、保育にあたっています。

—園児たちは誰もが小学校に上がるわけですから、幼稚園での保育はすべて就学に向けての準備であるということですね。

どうもありがとうございました。

日出学園の「幼小連携カリキュラム」に沿った就学準備保育の様子は、QRコードをスマホで読み込んで、動画でご覧いただけます▶



# 2023年度「学校評価アンケート」結果報告／トピックス

## 2023年度 学校評価アンケート 結果報告

2023年度「学校評価アンケート」は、ご回答いただきました結果と、過去3年分の経年変化を下記の図表で示しました。向上している項目についてはこれまで以上に強化していくとともに、重要項目であるにもかかわらず、過年度よりも低下した項目については、各校・園ともに、改善策を検討・実施してまいります。詳しくは別途発行の報告文書をご確認ください。

### 《重要度の高い項目について》

#### ▼実現度が平均以下の項目

##### ■幼稚園

「園児の安全を守る取り組みは十分である」

##### ■小学校

「学校の教育活動を通して自ら学ぶ姿勢が身についたと感じる」

「学校から必要な情報が保護者に届く形で発信されている」

「先生の児童対応は適切である」

2023年度の学校評価アンケート結果についてお知らせいたします。保護者様の回答状況は、前年度比で、幼稚園プラス3.3pt(回答率88.2%)、小学校マイナス3.1pt(回答率73.3%)、中学校・高等学校マイナス4pt(回答率70.1%)となりました。幼稚園の回答率は回復しましたが、引き続き小学校・中学校・高等学校では前年度比マイナスとなりました。これは保護者様の意思表示の一つと捉え、要望に対して真摯に向き合っておりますので、次年度以降是非ご協力をお願いいたします。

### ■中学校・高等学校

「先生はわかり易い授業を行っている」

「学校の進路・進学指導は適切である」

「学習内容を身につけている」

「学校の教育活動を通して自ら学ぶ姿勢が身についたと感じる」

#### ▲実現度が平均以上の項目

##### ■幼稚園

「明るくのびのびと幼稚園生活を送っている」

「先生の子どもへの対応は適切である」

「保育目標に沿い、発達に応じた保育がされている」

##### ■小学校

「学校生活に満足している」

「先生はわかり易い授業を行っている」

##### ■中学校・高等学校

「入学させて良かった」

「学校生活に満足している」

「先生の生徒対応は適切である」

### 《重要項目の経年変化》

#### ■幼稚園

先生や園児同士の関わりの中でお子様がのびのびとした幼稚園生活を送れているかの重要度が高まっており、実現度も比例している。一方で、例年重要度が高い「園児の安全を守る取り組みは十分である」について実現度が重要度を下回ったため、安全面に關わる事象が発生した際の即時的な対応ができるよう体制を構築する。

#### ■小学校

2022年から「必要な情報発信」の重要度が高まっているが、2023年に関して実現度が平均値よりも低い傾向となったため、情報発信の仕方を整理する等の対策を進める。また、今年度から追加した「自ら学ぶ姿勢」について保護者の重要度は高く、今後の小学校の課題となる項目である。

#### ■中学校・高等学校

2023年は「先生の生徒対応」について重要度・実現度ともに向上した。授業については「学習内容や自ら学ぶ姿勢

### 学校評価アンケート実施状況 (2021年度～2023年度)

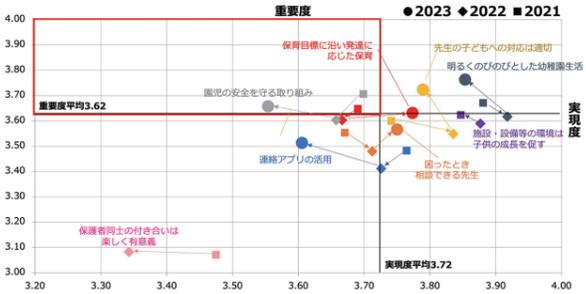
属性	年度	実施人数	対象者人数	実施率	
					属性
幼稚園	保護者	2023	75	85	88.2%
		2022	73	86	84.9%
		2021	85	98	86.7%
	教員	2023	9	13	69.2%
		2022	8	12	66.7%
		2021	13	13	100%
小学校	保護者	2023	447	610	73.3%
		2022	457	598	76.4%
		2021	474	598	79.3%
	児童 4・5・6年	2023	286	311	92.0%
		2022	286	297	96.3%
		2021	278	294	94.6%
教員	2023	39	43	90.7%	
	2022	33	45	73.3%	
	2021	37	45	82.2%	
中学校・高等学校	保護者	2023	616	879	70.1%
		2022	660	891	74.1%
		2021	823	910	90.4%
	生徒	2023	730	879	83.0%
		2022	699	891	78.5%
		2021	727	910	79.9%
教員	2023	38	79	48.1%	
	2022	33	79	41.8%	
	2021	60	89	67.4%	

が身につけている」が例年に続き重要度は高いが実現度が及んでいない。授業の在り方や自学習の取り組み方へのフォローについてさらに検討していく必要がある。

### 幼稚園 保護者

### 重要だが実現できていない項目

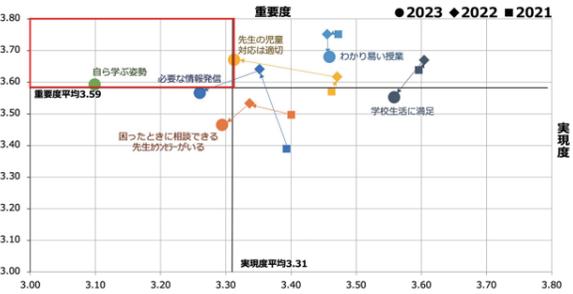
保護者について、重要度が高いが実現度は相対的に低い項目は、「園児の安全を守る取り組みは十分である」であった。



### 小学校 保護者

### 重要だが実現できていない項目

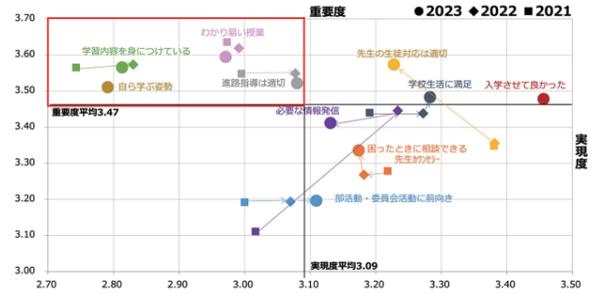
重要度の平均ではあるが「自ら学ぶ姿勢」「先生の児童対応」「必要な情報の発信」については重視度に比べ、実現度が低い。



### 中学校・高等学校 保護者

### 重要だが実現できていない項目

保護者について、重要度が高いが実現度は相対的に低い項目は、「わかり易い授業」「進路指導は適切」「学習内容を身につけている」であった。この傾向は、3年間で変化していない。加えて今回追加した「自ら学ぶ姿勢」も重要度が高いが実現度は相対的に低い項目となった。



## Balcombe Grammar Schoolの1年生と 日出学園小学校6年生との オンラインによる交流授業を開催

10月20日(金)、日出学園小学校6年1組の児童と、オーストラリアのメルボルン市内にある私立学校、Balcombe Grammar School(以下、Balcombe)の1年生児童によるオンライン交流授業が行われました。

Balcombeは小学1年生から12年生(高等学校に相当)までの児童・生徒たちが通う私学(2007年創立)で、外国語の授業ではフランス語と日本語を学んでいます。

今回のプログラムはBalcombeの1年生が日本の文化を学ぶ一環で、オンラインで日本の遊びの紹介を通じた交流です。Balcombeとは今回が初めての交流となりました。

このオンライン交流授業を担当したエリー先生は、海外の児童たちとの英語による交流は初めての試みで、6年1組を8つのグループに分け、それぞれのグループに日本の伝統的な遊びを紹介する動画を撮影させて、それを編集したビデオを事前にBalcombeに送



メルボルンと市川の時差は2時間。両校の授業時間内で交流授業が行われました

り、Balcombeの1年生からはビデオで紹介された日本の伝統的な遊びや、今日本で流行っている遊びについての質問項目が寄せられました。

そうした準備を踏まえ、オンライン交流授業当日は、日出学園の児童が質問に英語で答えるといった形で進行了しました。

「6年の児童たちは、英語で答える内容を事前に考えるだけでなく、今まで知らなかった日本の伝統的な遊びを調べて知る、いい機会になりました。また、よく遊んでいるテレビゲームなどについて、自分の知っている単語を使って英語でコミュニケーションを図ろうとする姿に感動しました。初めての試みでしたが、とても良い経験になったと思います」(エリー先生)

Balcombeとの交流は今後も予定しており、次回は日本語によるBalcombeの上級生たちとのオンライン授業も計画しており、お互いの外国語の授業の一環として、交流をより発展させていく予定です。



6年生は知っている単語を駆使してモニターの1年生の質問に応えます

## 中学校・高等学校 将来の選択肢を広げる英語4技能試験 「IELTSセミナー」を、生徒・保護者向けに開催。 2024年1月からは受検対策講座が学園内で開講

11月1日(水)、中学校・高等学校の4年生とその保護者を対象にした進路講演会が視聴覚室で開講され、終了後、場所を中学校・高等学校会議室に移して、「IELTSセミナー」が開催されました。

IELTS(International English Language Testing System)は、英語圏の国々に留学、就労または移住を希望する人の英語力を測定する英語試験で、世界140カ国11,000以上の機関で導入されている英語4技能試験です。

国内の大学入試でも8割以上の大学で採択されているほか、大学入学後に「奨学金申請」「単位認定」「留学」「就職」で利用できるなど、語学力を活かした進路設計の選択肢が広がるのも、IELTSの特徴です。

これまで、日出学園中学校・高等学校では、「真のグローバル教育を促進する」という目標実現に向け、英検やTOEFL、TOEIC、GTECといった英語試験を導入、毎年全員受検を行ってきました。英検は「可否」の

みの判定であったり、可否のないGTECやTOEICなどは大学入試や海外進学での利用が難しいといった点がありました。

そうした点をカバーすることができる英語検定試験として、IELTSを3年前から日出学園中学校・高等学校で導入した経緯について、英語科の石川茂先生は、「本校では英語4技能のうち、スピーキング能力をさらに細分化して、『会話力』と『プレゼンテーション能力』を加えた5領域の育成に力を入れています。IELTSのスピーキング試験ではネイティブの試験官と1対1で試験が行われ、『会話力』と『プレゼンテーション能力』のスキルについても評価してもらえるのが、本校が目指す英語4技能・5領域の英語学習成果を図る上でメリットがあります」と語っています。

中高では、2024年1月から3月にかけて、学園内で「IELTS対策講座」を実施。IELTSの運営母体であるパークレーハウスから派遣されたネイティブ講師が試験対策の講義を行う予定で、こうしたサポートもIELTS導入のメリットのひとつです。

今回行われた「IELTSセミナー」は、保護者や生徒自身が、IELTSへの理解を深め、試験へのチャレンジを促すためのものとして企画されたもので、英語を武器に進路選択を考える生徒たちが、真剣にパークレーハウスの担当者の方の話を傾けていました。



## 今年度の芸術鑑賞会はJAZZバンドによる演奏会 小学校 学園歌もJAZZ風にアレンジして演奏

11月14日(火)、アリーナ1に軽快なSwing JAZZのリズムが響き渡りました。小学校の秋の恒例行事のひとつ、**芸術鑑賞会**は1年ごとに音楽鑑賞と演劇鑑賞を交互に行っていますが、今年度はJAZZ鑑賞。トランペット、トロンボーン、テナーサキソフォン、ピアノ、ドラム、ウッドベースの6人編成に、ゲストでピブラフォン奏者を加えたJAZZバンド「Joy Swing Campany」を迎えて、低学年・高学年に分かれて2部構成のJAZZ演奏会を開催しました。

プログラムは、「茶色の小瓶」「A列車で行こう」「聖者の行進」といったJAZZの定番曲のほか、「ルパン三世のテーマ」や「ディズニーメドレー」など、児童たちにも馴染みのある曲をJAZZ風にアレンジしたものが演奏されまし



た。児童たちは手拍子や体でリズムをとりながらJAZZを楽しみました。

途中、JAZZの真髄である「アドリブ」でアニメソングを演奏したらどう変わるかといったコーナーや、児童たちがステージに上がって実際に楽器演奏する体験コーナーのほか、日出学園学園歌をJAZZ風にアレンジした演奏も披露されました。学園歌の音源からJAZZ風に編曲した譜面を起こし、アップテンポのリズムに生まれ変わったJazzyな学園歌。この曲を、もし、81年前に作曲した山田耕作先生が聞いたら、きっと驚かれたかもしれません。

フィナーレは、ベニー・グッドマン楽団の演奏で一躍有名となった名曲、「Sing Sing Sing」です。ドラムの鼓動に児童たちは徐々にヒートアップ。最後のアンコール曲、「天空の城ラピュタ」の主題歌『君をのせて』では、児童たちは総立ちとなり、初めての生のJAZZ演奏を、体中で楽しんでいました。



JAZZ鑑賞会の動画は、QRコードをスマホで読み込んでご覧いただけます▶



## 日出学園高等学校軟式野球部 3校連合で秋季関東大会に出場 来春は単独で出場予定!!

今年度、日出学園高等学校軟式野球部は、「**第64回秋季関東地区高等学校軟式野球大会**」に、木更津総合高等学校と筑波大学附属聴覚特別支援学校との3校連合で出場し、千葉県大会で準優勝、秋季関東大会へと進みました。

3校連合チームのまとめ役、日出学園の5年生の吉田伊吹主将は、「試合ではコミュニケーションが大事。練習の時から選手同士でコミュニケーションをとることを意識し、徐々に仲良くなってからはチームがまとまり、楽しく練習や試合に臨めました」と振り返ります。

10月24日(火)、埼玉県宮大宮公園野球場で行われた初戦の相手は、熊谷高等学校(埼玉県2位)。試合が動いたのは3回表の3校連合攻撃。代走で出塁した吉田主将は俊足を生かして盗塁成功。味方の四球で得た2アウト1・3塁のチャンスにダブルスチールを敢行し、3塁走者の吉田主将がホームを踏んで先制点を挙げま

した。その後、互いに得点を重ね、最後は3校連合が3対2で初戦を制しました。

翌25日に行われた三浦学苑高等学校(神奈川県川島1位)との2回戦は、3校連合は先発投手が初回に1点を献上。次を引き継いだ日出学園の諸橋投手は相手打線を無失点に抑えるも、三浦学苑先発投手はそれを上回るノーヒットノーランの好投。1対0で敗戦しました。

今回の関東大会に出場したことについて、吉田主将は「強豪

チームとの対戦を通じて、塁に出てからの点数の取り方など大会での経験が勉強になりました。次の春季大会は日出学園単独で出場できますので、県大会で優勝、関東大会へと進み優勝を目指します」と力強いひと言。期待しましょう!



初戦3回表、3校連合先制点の場面

秋季関東地区大会、3校連合の初戦のダイジェスト動画は、QRコードをスマホで読み込んでご覧いただけます▶



## 中学校 高等学校 発足1年目の英語ディベートの放課後学習クラブ「HiNoDe Debate Squad」が、初出場ですマーカップ準優勝、県大会3位の大健闘

今年度5月に発足した新たな放課後学習クラブ「HiNoDe Debate Squad(HNDDS)」が、夏休みに開かれた「**第6回高校生英語ディベートサマーカップ**」(全8チーム出場)で初出場で準優勝。続く「**第15回千葉県高校生英語ディベート大会**」(全12チーム出場)では3位と大健闘。発足からわずか半年の活動ながら、好成績を収めました。

指導にあたった顧問教諭は新任の高味直毅先生(英語科)。高味先生は大学時代に英語ディベートにのめり込み、英語で論争しながら勝敗がつくこのゲームの面白さを、ぜひ日出学園の生徒たちにも知ってほしいとの思いから、赴任早々HNDDSを立ち上げ、生徒たちへ参加を呼びかけました。

「英語ディベートは1チーム4人で構成され、与えられた論題に対して、肯定側・否定側の2チームが議論を戦わせ、どちらのチームが説得力に富んでいたかを審査員がジャッジして勝敗を競うものです。5月にクラブの立ち上げを生徒たちに発表した時は、「ともかく4人だけでいいので参加してほしい」と呼びかけたところ、4年生が3名、5年生が1名参加してくれました。そこから週3回、7時限終了後や所属する部活後から18時まで英語ディベートのトレーニングに励みまし

参加メンバーの1人、サマーカップで個人

第6回高校生英語ディベート千葉サマーカップ(8.20)				
予選第1試合	肯定	日出学園 ●(勝)	否定	成田国際 ⊗(負)
予選第2試合	肯定	芝浦工大柏 ⊗	否定	日出学園 ●
予選第3試合	肯定	翔凛高校B ⊗	否定	日出学園 ●
決勝戦	肯定	日出学園 1 ⊗	否定	翔凛高校B 2 ●

第15回千葉県高校生英語ディベート大会(10.22)				
予選第1試合	肯定	渋谷教育学園幕張 ⊗	否定	日出学園 ●
予選第2試合	肯定	日出学園 ●	否定	市立稲毛A ⊗
予選第3試合	肯定	翔凛高校A ●	否定	日出学園 ⊗
予選第4試合	肯定	日出学園 ⊗	否定	渋谷教育学園幕張 ●
3位決定戦	肯定	日出学園 2 ●	否定	市立稲毛 1 ⊗



高味先生(円内)と千葉県高校生英語ディベート大会出場のメンバー。左から石倉駿さん(4年)/流川慶大朗さん(5年)/木下友愛さん(4年)/森川亮太郎さん(4年)

賞のBest Debater賞に輝いた4年生の森川亮太郎さんがこのクラブに入った理由は?

「中学1年の時から英語部に所属していて、その時から英語の競技ディベートに興味があったということ、スポーツ部のように試合の勝ち負けで、喜んだり悔しい思いをしたり。そんな青春を送ってみたいからです」

今後は学内で英語ディベートの模擬試合を開催して生徒に見てもらったり、日出祭で強豪校との招待試合を行いたいと語る高味先生。これからもHNDDSの活動に注目です。

HiNoDe Debate Squadの活動の様子やメンバーへのインタビュー動画は、QRコードをスマホで読み込んでご覧いただけます▶



### 2023年度2学期 校外コンクール・大会等 優秀成績者一覧

所属部活	氏名	学年・組	コンクール・大会等名称	成績結果	
小学校	ポスター(個人)	岡村若奈	4年1組	第45回交通安全ポスター(市川市交通計画課)	最優秀賞
	絵画(個人)	窪田翔馬	3年2組	2023年 第24回ユネスコ絵画展『絵で伝えよう!わたしの町のたからもの』(市川市ユネスコ協会)	市川市公立学校校長会連絡協議会会長賞
	絵画(個人)	飯島千裕	1年4組	第18回夏休みエコ絵画コンクール	千葉県教育庁賞
中学校・高等学校	国語(学年)	石川華蓮	2年3組	第73回社会を明るくする運動市川地区作文コンテスト	市川市長賞 千葉県推進委員会委員長賞 県知事賞
	書道(個人)	大石真妃	6年1組	全国学生書道展	大賞
	吹奏楽部	高等学校		令和5年度吹奏楽コンクール(県大会)	銀賞
	英語部	森川亮太郎	5年4組	第2回映像字幕コンペティション	全国第3位
	読書感想文(個人)	木下友愛	5年4組	第69回 青少年読書感想文千葉県コンクール	佳作
	バトントワリング部	中学校バトン編成		第51回バトントワリング全国大会	銀賞
水泳部	金坂友利	2年4組	令和5年度千葉県中学生新人体育大会	男子200m個人メドレー2位/ 男子100m自由形3位	
			第77回千葉県中学校総合体育大会	男子400mリレー1位(市川浦安支部代表)/男子 400m個人メドレー2位/男子400m自由形4位	
			第30回千葉県中学生秋季テニス選手権大会	女子ダブルス 第3位	
女子硬式テニス部	高橋那緒	2年2組	第30回千葉県中学生秋季テニス選手権大会	女子ダブルス 第3位	
石川華蓮	2年3組				

※中学校・高等学校は千葉県大会以上のコンクール・大会出場者を掲載

### 小学校ダンスクラブ Xmas Live Video

小学校のダンスクラブによるXmas Liveが、12月12日(火)(低学年鑑賞)と13日(水)(高学年鑑賞)の2日間、お休みにアリーナ1で開催されました。その模様をダイジェスト映像でご覧ください。



ビデオ視聴はこちら▶



### 日出学園創立90周年 記念事業募金についてお願い

1934年(昭和9年)に開校(幼稚園・小学校。中学校開設は1947年、高等学校開設は1950年)した本学は、2024年11月2日に創立90周年を迎えます。

これを機に、これまで以上に園児・児童・生徒の学園生活がより豊かで実りあるものとするために、創立90周年記念事業を策定、来る100周年を迎えるためのステップと位置付け、学園施設の一層の充実を図る所存です。

つきましては、創立90周年記念事業にご賛同いただき、皆様からのご寄付を賜りたく、ここにお願い申し上げます。90周年記念事業の趣旨、事業内容は、日出学園ホームページをご覧くださいませと幸いです。



### 編集後記 創立90周年となる新年を迎えて

日出学園は今年で90周年の節目を迎えます。それに合わせ、今年、本学ではさまざまな記念事業が行われる予定です。保護者の皆様には日出学園創立90周年記念事業の趣旨にご賛同いただき、園児・児童・生徒の教育環境の充実のために、記念事業へのご協力を賜りたく存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

編集発行人 学校法人日出学園 学園長 青木 貞雄

学園通信「日出」 Vol.42 2024年2月号

※本紙掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

発行 2024年2月1日  
編集発行人 青木貞雄(学校法人日出学園 学園長)  
編集 学園通信「日出」編集委員会  
幼稚園 根岸 わかな  
小学校 澤瀬 正幸 廣嶋 秀行 日下 瑞穂  
中学校・高等学校 石川 茂  
法人企画室 児玉 孝喜 渡邊 広樹